



600字物語020

失った時間



エリー ELYE

---



# 目次

600 字物語 020 失った時間 . . . . .	1
-----------------------------	---



## 600 字物語 020 失った時間

わたしは目覚まし時計。

生まれてからずっと正確に時を刻んでいる。

休まないことがわたしの自慢だ。

けれどもある日、ご主人が言った。

「遅れている」

そんなはずはない。休んだことはない。

でもおかしい。動きがスローになっている気がする。

だんだん気が遠くなっていく。

いやだ。止まりたくない。動くんだ。

無音。無意識。暗黒。

そしてカチカチカチ……。

新しい電池を入れてもらい、わたしは再び動き始めた。

でも止まっていた間、わたしは時を刻んでいない。

指している数字は合っている。

しかし刻んだ回数は他の時計と違う。

わたしは遅れている。

わたしは間違っている。

わたしは正しくない。

すべての時を見守りたかったのに、取り戻せない思い出がある。

ああ。

「あなたは止まっていないわ。生まれ変わったの」

見上げると鉢植えのサボテンが笑っていた。

新しいわたし。新しい時間。新しい世界。

再会した今を大切にしよう。

ありがとうサボテン。

---

600字物語020失った時間

---

著 エリー ELYE

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---